

# 新婦人しんぶん

## 新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放を勝ちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

## 今週の紙面

- 2面 ニュース/署名
- 3面 読者のページ/まんが/乱楽
- 4~5面 いま自衛隊でなにが/女性 働く/ホット
- 6面 食事情/子育て相談/日本維新の会
- 7面 新婦人活動/主張/母の歴史



東京・千代田区 土屋喜代子

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

# 教員の長時間勤務に歯止めを

## 全国署名スタート!



教室で (本文とは関係ありません)

「小学校が学級崩壊状態で子どもはストレスで登校を渋る日が続いている。でも先生は荒れている子の対応で必死。昨日担任と話す、「私もいっぱい、生徒には本当に負担をかけています」と声を震わせ話していた」(会員から届いたメールより)。子どもたちの教育条件に直結する教員の勤務条件を、いまなんとかしなければ。そんな思いで、日本の教育学をけん引してきた幅広い研究者有志が呼びかけ、全国署名(2面)がスタートしています。

## 子ども一人ひとりに寄り添う学校に

日本女子大学教授 清水睦美



しみずむつみ 日本女子大学人間社会学部教育学科教授。専門分野：学校臨床学、教育社会学、移民の子どもに関する研究。

7月1日に都内で開かれた、公開シンポジウム「教員の長時間勤務に歯止めをかける思い切った改革を——研究者から訴える」での日本女子大学教授・清水睦美さんの講演(要約)を紹介しま

私は学校をフィールドとして現場に関わりながら、教育社会学分野の知識をベースとしながら、移民の子どもや東日本大震災で被災した学校、先生、子どもを対象として、社会的に弱者になりやすい子どもたちに注目して研究を深めています。

### 学校のあり方は…

まず、外国ルーツの子どもは、家と学校では言語も文化も違います。そのため家と学校での振る舞い方を変えなければならず、幼少期から非常にストレスが高い状況の中を右往左往し、迷ったり悩んだりしながら生活しています。そうした状況を踏まえて、日本の学校のあり方を問い直し、ともに生きていけるような教育活動をしていく可能性はないかと学校現場に話すが、現場から返ってくる回答は昨今、本当に厳しくなっています。

### 立ちすくむ教師たち

もう一つ、震災で被災した学校、教師、子どもたちは非日常的な世界に置かれます。そのなかでの学校再開は、「生きてよかったね」「大変だったね」と話せる、ごく意味があるものです。学校が、混乱した非日常と距離を取って震災前の安定した関係の中で癒やされる場所となり、つらさや苦しさを共有できる語りの空間になります。そういった被災経験にこだわりのない学校教育活動は教師たちにとって望まれたものなのですが、学校のカリキュラムに余裕がないために、被災で遅れた分を取り戻すことに躍起になり、被災経験を忘れて先に進むという方向に流れていくということがあります。

### 教育予算の増額を

教師たちの置かれた労働環境を変えていかないことには、子どもたちがもっと追い込まれていくと弱者になりやすい子どもたちとは、個々の子どもと話すこと、かれらのニーズを課題として受け止めていくこと、試行錯誤しながら実践にとりくむことが重要であるのに、余裕のなさ、個々の子どもと出会う前に専門家に任せるようになっていて、それがインクルーシブ(すべての子どもがともに学び合う)な環境作りを背景に退けてしまっています。

外国ルーツの子どもや震災で被災した子どもたちにとっての学校や教師というのは、子どもたちの置かれた状況に寄り添って未来をともに考えてくれるパートナーであるはずですが、先生たちはこうした重要性をわかりつつも、「わかっているけど、それをする時間的余裕がないんです」と語ります。時間的余裕のなさという状況のもとで、立ちすくんでいるのです。

時間的余裕を生み出す方法として最も適しているのは、一クラスの人数を減らすことです。クラスの人数が少なくなれば、それぞれの子どもたちの固有性を見出しやすくなり、その固有性や経験を生かしながら授業を作っていくことも可能になると考えます。そのためには当然教育予算を増額することが必要です。学校の先生に時間的な余裕を生み出すため、教員の長時間勤務に歯止めをかけることはとても重要です。全国署名にぜひご協力をお願いします。大きなうねりを作り出し、豊かな学校教育を実現しましょう!

〈2面へ〉

